日本木材学会中部支部

中部支部大会開催顛末記

福井県総合グリーンセンター　　土田博澄

10 月13 日、14 日の両日福井ワシントンホテルにおいて、2005 年度 日本木材学会中部支部大会を開催させていただきました。

中部支部が発足して17 年になりますが、当県には木材関係の研究を担当する大学・講座がないことから、当所の諸先達も含めて本県での開催を固く固辞し続けて来ました。が、２年前のある日、前支部長の奥山先生から今回はどうしても福井での開催を了解してほしい旨の電話をいただきました。一人では判断できかねることなので林業試験部長に相談したところ、何ごとにも前向きな部長さんは、「やれ。なんとかなる」と即断されたので、どんな準備・作業が必要かもわからないまま了解の返事をしました。

研究ニーズが多様化・高度化し、しかも速いスピードで研究成果が求められ、評価される時代のなかで、少人数で県産材の利用拡大、さらに木質バイオマスの有効利用という研究課題に取組んではいるが、学会で発表のできるような成果を未だ出せず、木材学会は雲の上。支部大会にも出席したこともなく、大会の様子そのものも全くわかりませんでした。

不安なまま月日は過ぎ、支部長も徳本先生に代わって、今年を迎えてしまいました。いまさらお手上げですとも言えず、勝手がわからないため、まずどんな準備が必要かを徳本支部長にお聞きし、待ったなしでスタート。先生もとんでもないやつが担当になったと不安になられたことと思います。

第一回会告、第二回会告までは出せましたが、第三回会告では発表者・発表課題を掲載する必要があります。ところが締切り１週間前になっても申し込みは２件のみ、あせりました。急遽徳本先生に相談。支部評議員にFax で発表を促していただくよう依頼しました。お陰様で締切り日過ぎには、前年以上の申し込み件数になりました。

それから課題・発表者の確認、原稿の確認と忙殺されましたが、「福井県」は小学高学年相手のアンケートによると、どこにあるかがわからない日本一影の薄い県のようです。さりとて男女の平均寿命、一世帯当りの持家面積・所得とも全国２位を誇っています。このような「福井県」を認知してもらうべく職員一同奮闘しているところであり、要旨集の２頁目に福井県のカットをいれさせていただきました。この件についても徳本支部長に相談させていただきましたが、そんな前例は無い。と言われてしまいました。

そんなある日、所長が来られて、「１ヶ月余りそんなことばかりやっているが、

それで採算面はどうなんだ。赤字になったら誰が負担するのか、参加者を増やすべく方策は考えているのか」と言われましたが、こればかりは相手のあることなので何ともし様がありません。結局心やさしい所長が金策に駆け回ってくださり、終わってみれば足を出さずに済みました。

また、大会当日所長が、大学講座も無い当県のような県で学会を開催するのは、参加者の確保や費用等の負担が多すぎる。大学を有する県だけで開催するようにと挨拶で言うからな。と言っていましたが、心やさしい所長は結局言いませんでした。

大会２日目には福井のイメージアップを目論んで「永平寺特別拝観」として募集しましたが、永平寺へ直接申込みした際にはあっさり断られ、役場に泣きついてようやく実現。「妙高台」「光明蔵」を拝見することができました。案内の僧侶が、永平寺内で修行する者でもこうした機会が無いとここには入れない、と言われていたことからも、一般の人ではなかなか拝見できない特別の場所だったようでした。

早いものであれから２ヶ月が経とうとしていますが、終わってみれば「熱さ」を忘れ、日常の業務に戻っています。

最後に支部長、会員の皆様および福井県内林業団体のご協力をいただいて盛況のうちにおえることができましたことを感謝申し上げます。

写真1　曹洞宗大本山 永平寺「光明蔵」での記念写真